



# あおもり 町連だより

第228号

令和6年1月発行  
青森市町会連合会  
〒030-0801 青森市新町一丁目3-7  
TEL 017(734)2584  
FAX 017(734)2587



「明日に向かって」 朝焼けのはやぶさ号(細越地区) 撮影:写真 芦名 公雄氏(県写連 顧問)

## 謹賀新年

地域と共に歩む市町会連合会  
青森市町会連合会 会長 佐々木 重光

新年あけましておめでとうござい  
ます。

地域町会長並びに町会員の皆様には、  
希望に満ちた輝かしい新年をお迎えの  
こととお慶び申し上げます。

また、日頃より当町会連合会の事業  
運営に格別のご理解とご協力をいただ  
き、心より感謝申し上げます。

令和六年度においては、組織の健全  
運営を目指し時代に対応した組織改革  
元年と位置付け、地域町会の課題や問  
題に対応した解決策を共に考え、共に  
取組むなど、各町会の連絡協調と住民  
の福祉増進を図り、豊かで住みよい町  
づくりのための活動を推進します。

今後ともより一層のご理解とご協力  
をお願い申し上げますとともに、各町会  
の益々の発展を祈念し新年のあいさつ  
とします。

### 基本方針

- ① 町会の要望に応えうる組織
- ② 地域に直結し、見える事業展開と  
成果を上げる組織
- ③ 公正・公平で透明性の組織
- ④ 安定な運営を、目指す組織

# 「自主防災組織」でみんなの命守ろう

## 青森市の町会、結成率伸び悩む

町会連合会は災害に備え、町会を中心に自主防災組織の設立促進に取り組んでいます。結成した町会は青森地区の全371町会のうち185町会で49.9%にとどまっています(令和5年2月末現在)。

### 中部地区で勉強会

地域振興部会は結成率が伸び悩んでいる地区で啓発事業を展開し、令和4年度の北部第1区連合町会に続き、5年度は中部第2区、第4区、第5区の3つの地区連合町会を対象にして10月16日、アピオあおもりで自主防災組織の勉強会を開きました。

市の総務部危機管理課職員が講師を務め、災害発生の恐れや自主防災活動の必要性、その役割などを解説し自主防災組織結成の意義を説きました。

講演のあらまは次の通りです。

【防災活動】災害時の救助活動は「自助」「共助」「公助」と大

きく三つに分けられます。自分の身を自分で守る「自助」、地域や近隣の人が互いに協力し合う「共助」、国や県、市などの行政、消防機関による救助・援助などが「公助」です。

阪神淡路大震災(1995年)の調査結果によると倒壊した家屋からの救助は自助66.8%、共助30.7%に対し、公助は2%足らずでした。発生直後は道路の寸断などで地域が孤立したり、行政なども被災するためです。

【自主防災組織】自主的に結成された地域の防災活動の中核となる組織です。自分たちの地域は自分たちで守るということを自覚し、災害による被害を予防・軽減することを目的とし、防災教育や避難所の運営など地域の特色を生かした活動を展開します。

【市の支援】自主防災組織が結成されると防災の資機材を支給します。消火器や組立水槽、消火バケツ、ハンドマイ

ク、ヘルメット、誘導棒、折りたたみ担架、救急箱、救助工具セットなどです。

自主防災組織育成強化を図る補助金も用意され、防災資機材などの購入費の二分の一(限度額5万円)、防災訓練開催経費の二分の一(同10万円)、防災士資格取得の受講料(同5万円)の助成があります。また、防災訓練や防災の講話には職員を派遣します。

【仲間づくり】災害時は自分の身は自分で守ることが重要。住民の命を守るためには「ご近所さんの力」が必要です。「いざというときはお互いさま」を心掛け、女性をはじめ、地域に暮らす多様な人々を巻き込み、防災活動の仲間を増やしていきます。

そこに暮らす一人ひとりが役割を担い前向きに取り組むことができるように心がけましょう。



### 3年ぶり防災訓練 横内地区150人参加

横内地区合同防災訓練が10月7日、横内市民センターで行われました。同地区の社会福祉協議会とまちづくり協議会、市民センターがコロナ禍の中断をはさみ3年ぶりのこと。お年寄りや子どもたち約150人が参加しました=写真右。

火災を想定した避難誘導や負傷者の救護、さらに段ボールベッドを活用した避難所づくりなど。市の女性消防団メンバーが負傷者のけがの程度を判断するトリアージやダミーの人形を使い心肺蘇生の仕方などを説明。県防災士会の三浦一郎青森支部長は小中学生に段ボールベッドや災害時に負傷者を運ぶ「毛布担架」の作り方などを指導しました。

## 女性部会が防災の研修会

町会連合会の女性部会は「防災の日」の9月1日、男女共同参画プラザで防災をテーマに研修会を開催しました。町会の女性部や婦人部の役員43名が参加し、市総務部危機管理課の職員が講師を務めました＝写真。

近年、国内各地で発生した地震や風水害の被災実態を写真やデータで紹介。①自分の身は自分で守ることが重要②ご近所さんの力が必要③いざというときは「お互いさま」を

心掛け④防災力の向上には自主防災組織が重要⑤女性をはじめ地域に暮らす多様な人たちを巻き込み、地域で防災活動に参画する仲間を増やそうと呼びかけました。

また避難所ではプライバシーへの配慮や少しでも快適な環境づくりが求められているとして、段ボールを活用したベッド組み立ての現地指導も行われました。



参加者からはスマホになれていない高齢者などへの避難情報の伝達に工夫が必要、防災の勉強会をもっと開いてほしい、など要望が相次ぎました。

## 女性防火クラブ 結成を呼び掛け

青森地域広域事務組合

火事を未然に防ぐ活動を続けている「女性防火クラブ」を知っていますか？家庭における火災予防に関する知識を習得し、さらには地域全体の防火意識の高揚などを目指して活動している団体です。

青森地域広域事務組合では結成を強く呼び掛けています。

【活動】消防機関や自主防災組織などの防災団体と連携するなど、地域住民に火災予防の知識や消火器の取り扱い訓練を実演し、火災を防ぐ技術向上に貢献しています。なかでもイベントを通じて住宅用の火災警報器の設置や維持管理を呼び掛けています。

【青森地域広域女性防火クラブ連絡協議会】青森地域広域事務組合管内の女性防火クラブが加盟し、令和5年4月現在、5つのクラブがあり、98名の女性が所属しています。

問い合わせは青森市長島2-1-1、消防本部予防課広報調査チーム、電話017(775)0853へ。

## 除排雪意見交換会 市に要望相次ぐ

青森市は今冬の除排雪事業実施計画の策定にあたり、町会連合会との意見交換会を10月6日、荒川市民センターで開催しました。

町会連合会から役員21名が出席し、市は新たな取り組みとしてライブカメラ設置やデータベースの活用などによる総合管理システムの運用を始めること、除雪オペレー

ターの負担を軽減するためスマホ用のアプリ活用などを展開することを説明しました。

町連からは交差点付近の雪積み残しや段差、除雪の出動が遅いため降雪といたちごっこ、オペレーターの力量に差があることなどを訴える意見が続出しました。

町会の役員たちが市民の苦情の窓口になり、市との板挟みになっていることもあり、市には重点的に取り組む具体策を示すよう求めました。

## 青森市が4氏表彰

青森市は令和5年度、多年にわたり町会長として市政に協力し著しい功績があったとして次の4氏を表彰しました。(敬称略)

有馬 忠昭 (新城上町町会長)  
石井 勇 (千刈町町会長)  
太田 孝 (相馬町町会長)  
齋藤 晴彦 (自由ヶ丘町町会長)

## 女性が活躍するまち

### 女性の集い 西市長が講演

市長が講師を務める町内女性の集いが11月7日、アピオあおもりで開かれました＝写真右。集いは町会連合会と女



性部会が毎年企画開催し、今回で44回を数えます。コロナ禍で休止や規模縮小が続いており、ようやく4年ぶりに元通りの形式となり、全町会の女性会員のうち152人が出席、会場もほぼ満席になりました。

佐々木重光会長と木村常子女性部会長のあいさつに続き登壇した西秀記市長＝写真上＝のテーマは「町会活動における男女共同参画の推進」。

青森市は平成8年10月、「あらゆる分野に男女が共同参画する社会づくりに市を挙げて取り組む」として男女共同参画都市を宣言しています。

宣言都市はいま全国で209都市を数えますが、青森市の宣言は全国で8番目、東北では2番目と早く、先駆的都市です。平成13年に拠点として男女共同参画プラザ「カダール」がアウガ5階にオープン、働く女性の家「アコール」ともども独自の講座や情報誌などを通して活躍しています。

さらに平成30年4月には男女共同参画推進条例を制定したほか、28年度から令和5年度までの8年間を計画期間にさまざまな取り組みを展開してきました。たとえば東青地域のビジネス拠点「あおもりスタートアップセンター」を運営し、女性の起業・創業希



望者への支援を実施しています。6年度には次の計画を策定する予定です。

西市長はこうした取り組みを紹介。「みんなで未来を育てるまち」青森市の実現に向けた三つの柱は「仕事をつくる」「人をまもり・そだてる」「まちをデザインする」こと。女性が地域活動に積極的に参画し、共に地域の未来を創っていく、まさに男女共同参画社会への道となると訴えました。また、女性が活躍しているまちづくり協議会の事例として市内の油川コミュニティ協議会や原別地域まちづくりを進める会、あんずましい三内地域の会をあげて「市民力」「民間力」を貸していただきたい、と講演を締めくくりました。

### 待ちに待ったまつり 北部市民センターで開く

コロナ禍で中止していた北部市民センターまつりが11月5日、4年ぶりに奥内の同センターで開かれました＝写真。

町内のサークルによる陶芸やこぎん、生け花、切り絵などの作品、児童館の習字、小中学校の図画工作などがずらりと展



示され、芸能発表した園児や児童はたくさんの拍手を浴びました。食堂もあり近隣の住民には待ちに待った楽しい一日となりました。

## 訃報

南部第3区 信用町町会  
町会長 坂本 正 殿  
令和5年9月13日ご逝去

東部第9区 茶屋町南町会  
町会長 舘山 一弘 殿  
令和5年9月20日ご逝去

中部第4区 上新町町会  
町会長 和田 正彦 殿  
令和5年9月23日ご逝去

南部第3区 山田町町会  
町会長 佐野 正昭 殿  
令和5年11月4日ご逝去



## 自由ヶ丘町会

町会長 齋藤 晴彦

### 水田から宅地造成

青い森鉄道小柳駅の南側に位置する自由ヶ丘町会は、水田が宅地造成され昭和60年12月に誕生しました。

創立当初は小柳地区の連合町会に所属しておりましたが、虹ヶ丘や浜館など周辺の宅地造成が進んだこともあり、連合町会や社会福祉協議会についても平成7年には浜館地区に所属することになりました。

### 法人化と町民会館建設

世帯数がどんどん伸び続けてくると、住民のコミュニティの場が必要になると考えるようになり、町民アンケートでも9割以上が賛成したことを機に町会を法人化し、平成9年9月に2階建・延床面積170坪の町民会館を建設しました。

町会の行事はもとより、住民の交流や趣味の場、各種教室などに毎週のように利用されているところです。

### 活発な活動団体

町内には「ほのぼの会(老人クラブ)」、「ゆめ文庫(図書貸出し)」、「防犯協力会(登校見守り)」の活動団体が組織され、それぞれ「笑顔で支え合う街づくり」「子どもの健全育成」



ほのぼの会音頭に手拍子も



子どもたちに人気



にぎわう産直の野菜販売

「安心安全な街づくり」に寄与してくださっています。

とくに「ほのぼの会」創立20周年記念で制作したオリジナルの「ほのぼの会音頭」は、新聞報道やテレビ放映で大きく取り上げられました。夏の夕べなど町内の行事で披露され、子どもたちも踊りに参加するなど、自由ヶ丘の「顔」として躍り継がれています。

### コロナ禍を乗り越えて

従来は多くの行事が実施され、とくに「夏の夕べ」ではゲームやステージイベント、大鍋の豚汁などを目当てに多くの参加者が集まり、フィナーレの花火打ち上げで大きな盛り上がりを見せていましたが、ここ数年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、「夏の夕べ」「敬老会」などの恒例行事も中止や縮小を余儀なくされました。

そのような状況の中で知恵を絞り、町会名を印刷したゴミ袋の全戸配布や、町民対象の抽選会を実施。今年度の抽選会では、子どもゲーム・おはなし会・道の駅おがわら湖の野菜販売とタイアップして開催し、夜の花火打ち上げも含めてたいへん好評でした。敬老会も4年ぶりに余興・会食有りで開催し、約70名の参加者で盛り上がりました。

今後も様々なアイデアで、活性化と町民還元を図っていきたくと考えております。

## ホームページをご覧ください

青森市町会連合会のホームページは町会の広報紙も掲載しています。パソコンでもスマートフォンでもご利用いただけます。アドレスは次の通りです。  
<https://aomori-choukairen.jp>

下記QRコード  
からもアクセス  
できます



## いにしへの「町名」「通り」を知ろう

近現代編⑩

## 西があるのに東がない？



田沢村・西田沢村の公文書の表紙  
(右:明治8年・左:明治13年 青森市民図書館歴史資料室蔵)  
※地名の囲みは筆者が施した。

## 西滝の「西」の意味は？

埼玉県さいたま市には「浦和」と付く駅が8つもあるそうです。青森市でも青森・東青森・新青森と3つあります。

浦和のようにたくさんある事例は珍しいかもしれませんが、駅名や地名ではひとつの名称に「東西南北」や「上中下」「新」などを付すことはよく目にするでしょう。

ところで、青森市の西部地区に「西滝」という地名があります。ところが、周辺には「滝」という地名はもちろん、「東滝」「南滝」「北滝」もありません。なのにどうして「西滝」なのでしょう？

## 同じ地名を区別する

明治12年(1879)3月17日付で当時の県令山田秀典は「管下各郡ノ内今般同名或ハ異字同称等ノ村々、左ノ通東西南北ノ文字ヲ冠ラシメ其村名ト相定候」と指示しました。すなわち、おなじ郡内で

まったくおなじ名称、または宛てる文字は違って読みがおなじとなる村の名称は、「東西南北」を付してその名称とするように…というのです。

ですから、青森県では郡単位では同一

村名(地名)を用いないことになったのです。西滝のそばに滝という地名がないのは、こうした事情があったのです。

さて、明治12年当時、東津軽郡には現在の青森市域と平内町域の2か所に滝村・田沢村が存在しました。そこで、これらを区別するために青森市域側を西滝村・西田沢村とし、平内町側を東滝村・東田沢村としたのです。

## 西津軽郡の金沢と金ヶ沢

こうした地名変更は当然東津軽郡以外でもありました。ここでは西津軽郡の事例を紹介しましょう。

同郡では、現在の鱒ヶ沢町域に金沢村、深浦町域に金ヶ沢村がありました。さきにみた東津軽郡の事例とは違って、似てはいるものの、表記も読みも異なる地名が対象となっています。ここでは、前者が南金沢村、後者

工藤 大輔編集委員  
(市民図書館歴史資料室長)

が北金ヶ沢村となりました。ところで、青森市にも北金沢という地名があります。もちろん、明治12年の地名変更は郡単位の地名を対象としているので、こちらは対象外となります。しかも、南側には金沢という地名が存在しています。ただ、この北金沢にも誕生の事情があるのです。

## 市村合併と北金沢・北片岡

昭和6年(1931)12月26日、大野村会は村の一部を青森市と合併させることを決議します。合併することになったのは、大野村大字片岡と大字金沢の一部でした。

そのため同日の村会では、これらふたつの大字を南北ふたつに分割することを決議し、北片岡と北金沢を青森市と合併させることにしたのです。

ちなみに、北片岡の名称は現在町会名に残っているほか、地名としては一般にはなじみが薄いかもかもしれませんが、現在セントラルパークに建設が進むアリーナの西側、中央大橋の直下付近の鉄道施設のあ



昭和18年の北金沢と北片岡  
(昭和18年「青森市全図(部分)」青森市民図書館歴史資料室蔵)  
※地名の囲みは筆者が施した。